

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

祝 御 復 活

わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。(ヨハネ11:25-26)

4月に入って大斎節から聖週、そして復活日を迎えます。そして私たちはこの間にキリスト教にとって最も大切な出来事を記念することになります。

即ち、それは主イエス・キリストの十字架という最も絶望的な死からの復活であり、そしてその死によって主が私たちの罪をすべて贖ってくださり、私たちにも永遠の命への復活が約束されたというキリスト教の福音そのものに他なりません。

また昨年からの一年余りの間に私たちはアンデレ吉田直人兄、グレース吉田 満姉、そして当教会元牧師のヨシュア前田次郎司祭、そして司祭夫人のグレース千代子姉を天国に見送ることになりました。

ご遺族の方々にとっては、尚も悲しみ、寂しさが癒えないことと思います。しかしそうした時にこそ、今一度、私たちに与えられたこの復活信仰に堅く依り頼みたいと思います。

確かな復活信仰

冒頭の聖句は、愛する兄弟ラザロの死に嘆くマルタに対してイエスが語られたものでした。マルタは嘆きつつも「終わりの日の復活の時に復活することは存じております。(ヨハネ11:24)」とイエスに答えました。復活信仰そのものは当時のユダヤ人たちも抱いていました。

しかしイエスの言われる復活信仰はさらに確かなものでした。それが冒頭の聖句です。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」

ここまで言い切ってよいものかと思えるほどの強い言葉です。しかし肉体的な死が本当の死ではないという信仰に堅く立つならば、このイエスのみ言葉は理解できるものとなる筈です。

そしてイエスはこの強い言葉で、復活を遠い未来に与えられるという永遠の命への淡い憧れではなく、主イエス・キリストを信じることによって肉体的な死をもって終わるのではない真の命を、今現在、生きるように招いておられるということです。

コロナ禍からの再生

コロナ禍は3年目を迎え、それにより礼拝や宣教・牧会に大きな制限を受けました。しかも尚、兵庫県では一日に千人を超える感染者が報じられています。しかしながら少し、コロナ感染症の様相に変化が生じてもいます。

聖ミカエル広畑幼稚園はこの春、新園舎が与えられました。一方、慣れ親しんだ旧園舎・体育館とはお別れしなければなりません。しかしこの時を「教会と幼稚園の新たな宣教のヴィジョン」が与えられますようにと祈っても来た筈です。

今年のイースター合同礼拝は体育館で行う予定です。これが体育館の使い納めとなります。共にコロナ感染予防に十分気を付けながら、コロナ禍からの再生と、新たな宣教のヴィジョンが与えられることを祈りつつ、今年のイースターを共に祝いたいと思います。